



国内での活動

港区立白金小学校で「国際理解教育」出張授業を実施しました！



出張授業の様子

昨年に引き続き、今年も東京のエリトリア大使館のプログラムの一環として、6月25日に港区立白金小学校にて「国際理解教育」の出張授業を実施しました。白金小学校はエリトリア大使館の近くに位置しており、今年も同校から大使館にご依頼があり、エリトリア出身で世界こども財団の職員であるケセテ・ハブテシオンさんが講師を務めました。

今年は3年生の4クラス、合計115名の児童が参加してくれました。昨年は図書館で実施しましたが、今年は参加者が増えたため、より広い体育館での開催となりました。

当日は、白金小学校の校長先生をはじめ、担任の先生方、そして港区役所の国際交流ご担当者の方にもご視察いただきました。

授業ではケセテさんが、エリトリアの文化や生活について紹介し、こどもたちも興味津々で、和やかな雰囲気の中で、授業は大盛況のうちに終了しました。

後日、授業に参加した60名の児童からの感想のお手紙が、エリトリア大使館を通して届きました。

「エリトリアの言葉をたくさん知れてよかったです。」

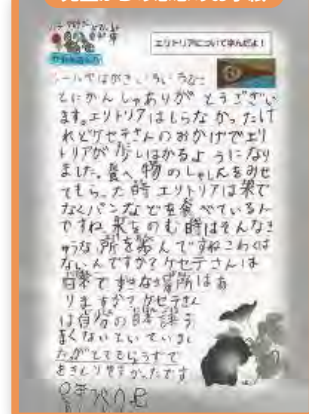
「エリトリアの列車に乗ってみたいと思いました。」

「チャオで友達ちにさよならの意味を伝えています。」

など、一人ひとりがエリトリアについて学んだことや質問などを綴ってくれました。

このような国際理解や交流の機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。今後もこうした機会を通じて、より多くの方にエリトリアについて知っていただければと思います。

児童からの感想のお手紙



TICAD9 開催、アフリカラウンジにてエリトリアの紹介をしました



TICAD 展示会場

8月20日から22日の3日間、横浜・みなとみらいにて、「第9回 アフリカ開発会議（TICAD9）」が開催されました。TICADはアフリカの開発をテーマとした国際会議であり、アフリカ各国首脳を始めとする多くの方が訪日しました。

会場となったパシフィコ横浜では、併せて「TICAD Business Expo & Conference」という展示イベントが開催され、多くの日本企業がアフリカ各国へ向けてその技術を発信するとともに、「アフリカラウンジ」というエリアでは、アフリカ各国がそれぞれの産業やビジネスについて紹介するブースを出展しました。



エリトリアの産業について紹介

エリトリアもブースを出展し、今回、エリトリア大使館からご依頼をいただいて、ケセテさんがブース運営のサポートをしました。

3日間、来場者のみなさんにエリトリアの産業についてご紹介する役割をいただき、多くの方と交流をすることができました。



ブータンパラリンピック委員会へ競技用車いす 5 台を寄贈しました



世界こども財団では、2025 年 8 月に、コロナ禍以降初めてブータン王国を訪問しました。今回の訪問の大きな目的のひとつは車いすバスケットボール用の競技用車いす 5 台を、ブータンパラリンピック委員会（BPC）に届けることでした。この車いすは、2020 年に日本テレビ『24 時間テレビ』のプログラムを通じ、ブータンで障がいのある若者にスポーツを通じて挑戦の機会をつくるために、ご提供いただいたものです。新型コロナウイルスの世界的流行の影響もあり、車いすを届けるまでの道のりは平坦ではありませんでした。それでも約束を守るために調整を重ね、5 年の歳月を経てようやく、ブータンに届けることができました。

ブータンでは競技用車いすが極めて少なく、大会では海外の団体や友好国から器具を借りることが多く、それが育成や競技力向上の壁となっていました。贈呈式では BPC 関係者から「選手たちが夢を追い続けるための大きな力になる」との言葉をいただき、現地メディアも「未来を切り拓く希望の贈り物」として報じました。

今回の車いす寄贈が、単なる物資支援で終わることなく、未来のパラアスリートが安全で本格的な環境で競技に取り組むための後押しとなること、さらに、ブータン社会におけるインクルージョン推進の契機となることを願っています。車椅子バスケットボールは障がいのある人と健常者が共に楽しめる競技であり、学校や地域での普及を通じて交流が広がれば、障がいに対する理解も深まり、共生社会実現に向けた象徴的な取り組みとなるはずです。

また、今回の滞在中には、ブータンオリンピック委員会（BOC）や各競技連盟を訪問し、これからのプログラムについて協議しました。「ゆっくり、されど着実に」、世界こども財団のビジョンを大切に、ひとつひとつのプログラムを、

ブータンパラリンピック委員会からの感謝状



ブータンの皆さんと一緒に実現していきたいと思います。そして、スポーツや教育を通じて多様性を尊重する社会の実現を目指し、活動が続けていきます。



ブータンパラリンピック委員会へ車いす贈呈



ライフル射撃連盟を訪問



2019 年に寄贈し、現在も活躍している福祉車両

ブータンパラリンピック委員会（BPC）について

世界こども財団と星槎グループは、長年にわたりブータンの教育、スポーツ、国際交流を軸に現地との連携を進めてきました。その象徴的な成果の一つが、ブータンパラリンピック委員会（BPC）の設立です。BPC は、ブータンオリンピック委員会（BOC）と協働して制度設計や国際的な承認手続きを進め、2017 年に正式発足しました。これによりブータンは障がい者スポーツ推進の体制を整え、国際的なパラスポーツの舞台へと歩みを進めることになりました。



星槎の学びと共生の心—ブータンから広がるスポーツの未来



BOC テクニカルアシスタントのペンジョさん

今回のブータン訪問では、星槎で高校、大学と学び、卒業後にブータンオリンピック委員会（BOC）に就職したツェリン・ペンジョさんが、世界こども財団との橋渡しとして、重要な役割を果たしてくれました。

ペンジョさんは、ブータンのスポーツが今まさに変わろうとしている現状と、その中心で彼が取り組む3つのプロジェクトについて紹介してくれました。さらに、これらの取り組みは、「人が互いに支え合い、共に成長する場をつくる」という星槎が大切にしている「共生」の理念を行動に移すものであり、国を挙げたスポーツ振興の戦略的施策として BOC の会長であるジゲル王弟殿下の直下で進められているということも話してくれました。

3つのプロジェクトについて、まず「Sports in School Program」は、学校教育の現場にスポーツを自然に溶け込ませ、生徒が体を動かすことの喜びとともに、協調性や主体性、創造性などのラ

イフスキルを育む取り組みです。生徒主体でスポーツの魅力を発信する活動や図画表現を通して、自分の言葉でスポーツの価値を描く取り組みです。

次に「BEAST for Athletic Excellence」は、国際大会で成果を上げるための戦略的サポートプログラムです。若い才能を早期に見出し、科学的トレーニングやプロによる指導、メンタリングを組み合わせ、国内競技連盟や政府と連携しながら、技術委員会による継続的な評価体制を整えています。

3つ目の「Junior Giants of Bhutan」は、この夏新たに始まったプログラムです。背の高い若者たちの身体的な特性を活かし、バスケットボール、バレーボール、陸上、アーチェリーなどに挑む機会を提供する、ブータン初の試みです。登録から選抜はオンラインと対面で行われ、首都ティンブーでは専門的なトレーニングや技術評価が実施されました。参加者には証明書が授与され、将来的には国内外の競技シーンで活躍する道も開かれています。

これら3つの取り組みに共通するのは、「誰もが尊重され支え合う環境をつくる」という方向性であり、星槎の「共生」の理念に通ずるものです。教育現場での活動、選手の国際的な活躍、そして背の高い子どもたちが誇りをもって挑戦できる場づくりという3つのプログラムをつなぎ、継続していく中で、ペンジョさんは星槎で学んだ「共生」の理念を行動に移しています。

さらに、ペンジョさんは、日本体育大学で開催されている NCDA-ICCE Coach Developer Course（日本体育大学コーチデベロッパーアカデミー＆国際コーチングエクセレンス評議会コーチデベロッパーコース）に参加してさらに研鑽を積み、将来的にはコーチデベロッパーとして国内のコーチ育成に責任を持つ立場になります。彼がコーチたちを導く存在となる時、BOC が展開するこれらの取り組みは、さらに深く、広がりを持ってブータン社会の支柱となっていくことでしょう。



卒業生キンレイさんと BOC 事務所にて



ソナムカルマツェリン BOC 事務局長とペンジョさん



海外での支援活動

ウガンダ共和国 “SEISA Africa Asia Bridge” の完成記念モニュメントが設置されました！



世界こども財団では、アフリカ・ウガンダ共和国において、日本とウガンダの人々が協力して創設した「KOMOREBI 小学校」と、そこに通うこどもたちを支援する活動を 2023 年にスタートしました。そして、雨季になると冠水し、こどもたちが安全に通学できなくなる状況を改善するため、通学路に橋を建設しました。橋は昨年、2024 年に完成し、“SEISA Africa Asia Bridge” と名前を付けさせていただきました。

先日、この橋に完成記念のモニュメントが設置されました。モニュメントには橋の名前とともに、多額のご寄付を賜った企業・団体・個人の皆様のお名前が「共同創設者」として刻まれています。

世界こども財団では橋の完成後も、教室の増設支援など、KOMOREBI 小学校への支援を続けていきます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。



橋の完成記念モニュメント



橋を渡って小学校に通うこどもたち

世界のこどもたちの未来づくりのために ご支援をよろしくお願いいたします

世界こども財団では、私たちと一緒に世界のこどもたちに手を差し伸べる「仲間」を募っております。

昨年度は 441 名の個人会員、90 社・団体の法人会員・協力企業のみなさまに支えられ、活動を行ってまいりました。

こどもたちの未来をつくる活動に、ぜひご参加ください。

●賛助会員

個人会員 年会費 6,000 円 / 一口

法人会員 年会費 120,000 円 / 一口

●ご寄付

金額を問わず、随時受け付けております。

●寄付型自動販売機設置のお願い

現在、世界こども財団では各飲料メーカーと提携し、「寄付型自動販売機」を積極的に展開しています。購入頂いた飲み物の売り上げの一部が当財団に寄付される仕組みとなっており、こどもたちの未来へと繋がっています。

自動販売機の設置費用や管理運営等はございません。少しでも興味のある方、設置しても良いという方、是非ともご連絡をお待ちしております。

詳しくは、世界こども財団のホームページ、またはお気軽に事務局までお問い合わせ下さい。



2025 年 10 月発行

公益財団法人
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索！
制作: 岡村直実 (JC ユニット)

